

本島児童が民泊体験へ

12月に
実施

宮古など県内5カ所

県は、本島の児童を離島に派遣して体験学習などを実施する離島体験学習促進事業を、12月26日から28日までの2泊3日の日程で、宮古島など県内の5カ所の離島で開催することをこのほど決めた。

将来を担う児童生徒が離島の魅力や重要性、特殊性について認識を深めるとともに、本島と離島との交流促進を図ることで離島地域の活性化を図ることを目的に実施される同事業。派遣先は宮古島など

5カ所で、今年は1離島へ1クラス単位40人以内の小学6年生を派遣し、民泊や農漁業、伝統文化や自然観察などを体験しながら地域住民との交流を図る。事業期間は今年度から3年間、予算は約2000万円。

同事業を実施する地域振興コンサルティンク会社・カルティベイ

ト(本社・那覇市)の開梨香社長は「那覇や浦添など本島都市部にはコミュニケーションがうまくとれない子どももいる。離島の人たちとの触れ合いを通して生きる力をはぐくむとともに、一次産業を体験することで何かを生み出す体験をしてほしい」との思いを語った。